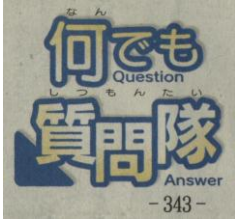




サツマイモはどこから来たの

中南米から中国を経由



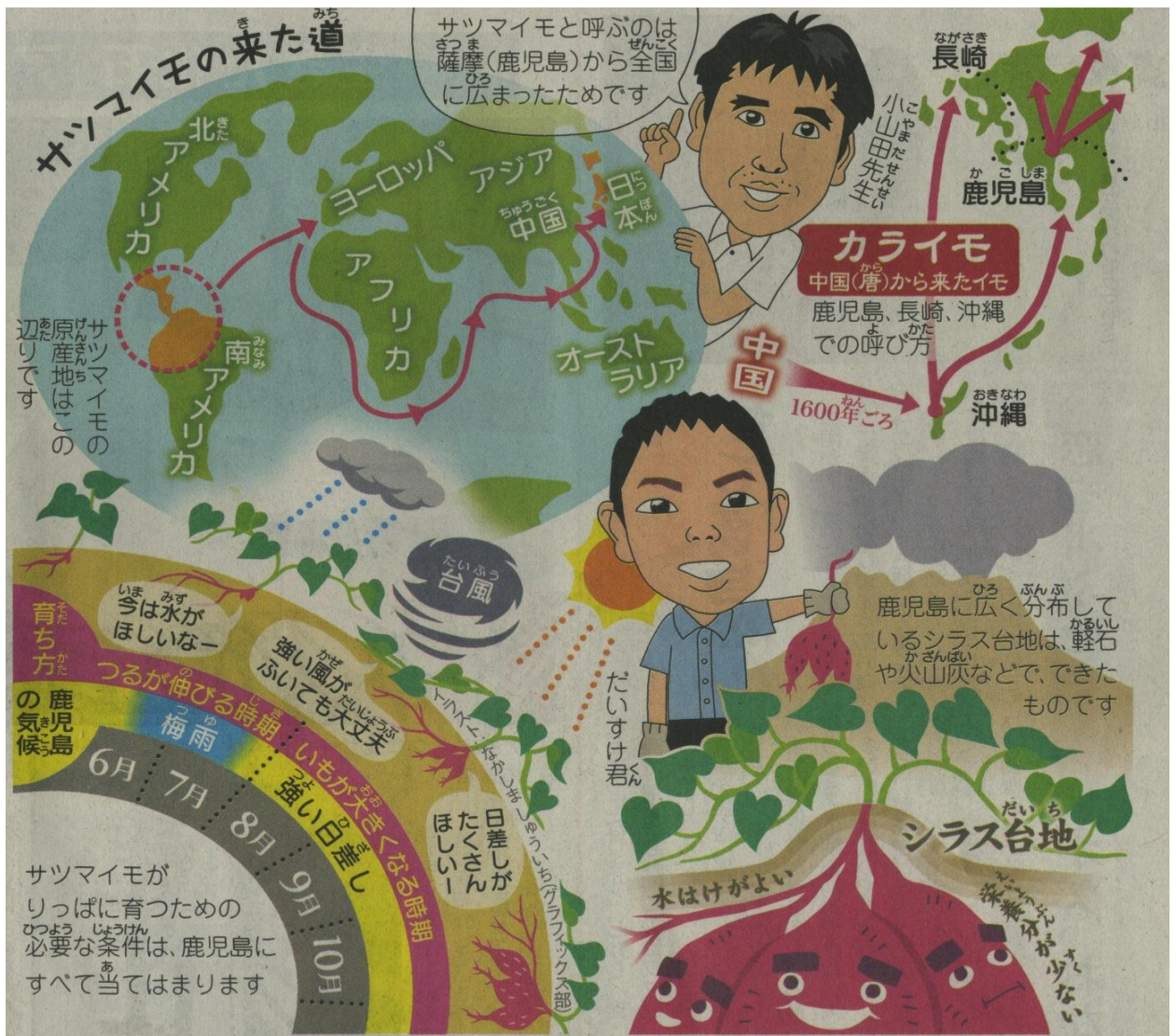
鹿児島県は、サツマイモの収穫量が日栄一だとお父さんから聞きました。サツマイモは、海外から伝えられて広まったのですか。また、サツマイモがたくさん収穫できる条件には気候・土壌・地形も関係しているのですか。

高尾野小6年（出水市）尾上 大輔君

おこたえします

山田耕作さん

鹿児島県農業開発総合センター大隅支場園芸作物研究室主任研究員



サツマイモの原産地は中南米です。日本には今から400年ほど前、中国を経て沖縄に伝わり、九州、本州へ広がっていきました。サツマイモはやせた土壌でもよく育つので、江戸時代以降、飢餓対策として広く栽培されるようになりました。サツマイモの語源は、薩摩（今の鹿児島）で盛んに栽培され、そこから全国に広がったためと言われています。

大輔君のお父さんの言うとおりに、サツマイモの生産は、鹿児島県が日本で、全国の4割を占める収穫量です。これには、鹿児島の風土とサツマイモの相性が大きく関係します。

まず、サツマイモを育てる主な気象条件として、①温暖であること（イモが大きくなるのに適した温度は気温20～30度）、②つるが伸びる時期（6～7月）に雨が多いこと、③イモが大きくなる時期（8～9月）は強い日差しが必要であること—があります。なんと、これらの条件は鹿児島にすべて当てはまるのです。また、サツマイモは地面をほうように育つので、台風の多い鹿児島でも風の被害を受けにくい利点があります。

次に、サツマイモはやせた土壌でもよく育つ特徴があります。逆に栄養の多い土壌で栽培すると、「つるボケ（つるや葉ばかり成長し、イモの太りが悪くなる現象）」になることがあります。イモが大きくなる時期に雨が多いと生育が悪くなるので、畑の水はけがよいことも重要です。シラス台地が広く分布している鹿児島は、畑に栄養分が少なく、水はけもよいことから、サツマイモの栽培にとっても適しています。

このように、サツマイモがたくさんとれる条件は気候や土壌が大きく関係しています。このほかにも、植える時期や植え方も収穫量に関係するので、ちょっとした違いで、イモの付きや太り方にどんな違いが出るかを実験してみると面白いと思います。

平成24年7月8日（日）／南日本新聞・こども新聞